様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：３２６３６
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０４４２

研究課題名（和文）仏教東流と大安寺文化圏ー祇園精舎・長安西明寺・大安寺創建説話の背景

研究課題名（英文）The spread of Buddhism and cultural area of Nana period -Gion-shoja, Saimyou-ji and Daian-ji-

研究代表者
藏中　しのぶ（KURANAKA, SHINOBU）

大東文化大学・外国語学部・教授

研究者番号：４０２１５０４１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円、（間接経費）　　750,000円

研究成果の概要（和文）：《仏教東流》を象徴する大安寺創建説話《兜率天宮→祇園精舎→長安西明寺→大安寺》について国際シンポジウムを開催(2013年10月23日東西文化の融合「仏教東流と東西世界」、2014年3月16日水門の会「玄奘三蔵とシルクロード･敦煌･日本」)。「知的体系の継承関係論」では①百済弥勒寺「金製舎利奉安記」と『延暦僧録』の共通語彙から唐→百済・日本の仏教東流ルート、②敦煌文献「唐三蔵西天行記」から玄奘説話の生成を考証。「人的ネットワーク論」では①『翰林学士集』②『和名類聚抄』に引く白話体漢和辞書『弁色立成』『楊氏漢語抄』の俗語語彙から奈良･平安朝の律令官人の学問＝律令学・仏教学・文学の具体相を解明した。

研究成果の概要（英文）：I have organised two international symposiums on the foundation legends of Daian-ji as a symbol of the diffusion of Buddhism to the East (from Tushita Palace to Jetavana Monastery, to Xi Ming Monastery in Chang'an and Daianji (Encounters of Western and Eastern Cultures: Diffusion of Buddhism to the East and the Eastern and Western World, October 23, 2013; Minato no kai: Xuanzang and the Silk Road, Dunhuang and Japan, March 16, 2014). "Theories on the transmission of the intellectual systems" investigates the routes for the diffusion of Buddhism from the T'ang China to Kudara and Japan, through an analysis of the lexis found in "Kinsei shari hoanki" and Enryaku soroku, and yet the inception of the Xuanzang legends through the study of Dunhuang manuscripts. "Theories on personal networks" analyses colloquial terms in dictionaries such as Benshiki ryujo and Yoshi kangosho, shedding new light on the scholarship on ritsuryo officials of the Nara and Heian Periods.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：百済　インド　中国　敦煌　玄奘　鑑真　翰林学士集　和名類聚抄

１．研究開始当初の背景

前年度までの科研費研究「大安寺文化圏の研究」では、基礎研究として、鑑真伝三部作を「類聚編纂書」として捉えなおし、出典論・源泉論の立場から、鑑真伝をてがけた８世紀の思託・９世紀の豊安・13 世紀の凝然の「抄出」と「類聚編纂」の質と内容を検討した。これによって、８世紀思託の長安西明寺の類聚編纂書群との出典関係を軸に、歴史的・通時的共同体としての「知的体系の継承関係論」を展開し、さらに、「人的ネットワーク論」として、この出典体系を支えた同時代の共時的共同体の人的ネットワークを整理した。

玄奘三蔵が創建にかかわり、道宣が領導した長安西明寺で編纂された仏教の類聚編纂書群の成立と享受の位相に着目し、この出典体系を継承する平城京の大安寺文化圏について、その主たる担い手が『延暦僧録』「居士伝」に立伝される質の在俗仏教徒＝文人＝学者＝律令官人層であること、長安西明寺→大安寺文化圏にみられる仏教的な出典体系の継承は、初唐・太宗・高宗の総体的・体系的な宮廷文化受容の仏教的側面が表出したものであること、仏教のみならず、漢籍の受容については、古辞書・古注釈の引用文献から、律令学・文学（儒教）の学問の場にも、注釈書を介在とし、講説の場が想定されることをあきらかにした。

２．研究の目的

１を踏まえて、本研究では、《仏教東流》の歴史観を軸とした東アジア文学史を想定する。《仏教東流》を象徴する大安寺創建説話《兜率天宮→天竺・祇園精舎→唐・長安西明寺→平城京大安寺》の系譜を軸に、玄奘・鑑真の伝記・説話の展開の様相をたどり、初唐から奈良平安朝にいたる文学と学問の「出典体系の継承」と、これを支えた「人的ネットワーク」の具体的な展開の様相を跡づけ、そのシステムを解明することを目的とする。

３．研究の方法

《仏教東流》の東アジア文学史を構築し、これを象徴する大安寺創建説話を検討するために、次のふたつの観点を設定した。

第一に、「知的体系の継承関係論」である。隋・唐代と奈良・平安朝の文献にみえる《仏教東流》《祇園精舎》関係記事の本文研究・出典考証をおこなう。特に、《仏教東流》をになった玄奘三蔵・鑑真の伝記と説話の展開の様相に着目する。

第二に、「人的ネットワーク論」である。この出典体系の継承を支えたのは、どのような人々であったのか。

（１）『延暦僧録』に「居士伝」として立伝される在俗仏教徒に着目、彼らが律令官人＝文人＝学者の面を兼ね備えていることから、奈良・平安朝の律令官人の学問に注目する。

（２）『和名類聚抄』所引の奈良時代の白話体漢和辞書『弁色立成』『漢語抄』『楊氏漢語抄』の口語語彙に注目、唐代口語語彙が古辞書に採録された理由として、律令官人が学んだ学問の多重性と具体的な講説の場を想定する。

（３）大安寺文化圏の学問と文学には、初唐・太宗、高宗の宮廷文化の総体的・体系的な影響が想定される。

①『翰林学士集』に収載された唐・太宗の宮廷詩、特に儒教的な儀礼である釈奠詩に注目する。

②吉備真備『私教類聚』に多大な影響をあたえた『顔氏家訓』に注目し、訓戒書の展開を視野に入れる。

以上の方法により、奈良平安朝の漢文学の根幹は、律令官人の学問によって支えられているという視座をたてる。こうした律令官人の学問の場が、奈良時代の長安西明寺から大安寺文化圏、さらには平安朝にいたる出典体系の継承に、背後で大きな役割を果たしていたことを解明する。

「長安西明寺から大安寺文化圏への出典体系の継承」をひとつの典型例、モデル構築として想定し、平城京の文学・学問の源流として、初唐の太宗・高宗の宮廷文化全般を大きくとらえ直す。

４．研究成果

《仏教東流》の東アジア文学史を象徴する大安寺創建説話《兜率天宮→天竺・祇園精舎→唐・長安西明寺→平城京大安寺》の系譜の背景を二つの観点から考察した。

（１）「知的体系の継承関係論」として、奈良平安朝文学の出典体系の具体的な展開の様相を、玄奘伝・鑑真伝、『延暦僧録』居士伝を軸に跡づけ、大安寺創建説話の歴史的・文献的背景には、唐の太宗の文化の体系的な受容があり、その仏教文化の一面が表出したものであることを指摘した。

奈良平安朝の文献にみえる《仏教東流》《祇園精舎》関係記事の本文研究・出典考証により、日中の《祇園精舎》のスダッタ長者の伝記表現と藤原氏の伝との関係をあきらかにするため、次の隋唐代と奈良平安朝の文献の《仏教東流》関係記事に注目した。

①《祇園精舎》を釈迦に布施した、富裕な在俗仏教徒スダッタ長者の説話

②唐への《仏教東流》をになった玄奘三蔵の伝と説話

③平城京への《仏教東流》をになった鑑真の伝記『延暦僧録』

スダッタ長者の表現類型は、さまざまなバリエーションを生み、一見それとはわからない表現で継承されている。『延暦僧録』の藤原氏の伝、『藤氏家伝』には、娘を皇后にした藤原氏の伝に、スダッタ長者の表現類型が用いられていた。このことは「積善藤家」の思想の生成にもかかわることを論じた。

また、新出史料百済弥勒寺「金製舎利奉安記」の銘文に、『延暦僧録』「天智天皇菩薩伝」と共通する語彙がみいだされた。このことは、

百済弥勒寺「金製舎利奉安記」とほぼ同時代の天智天皇の仏教の質を問い直す必要性を喚起するものである。特に、天智天皇の弥勒信仰は、『延暦僧録』に記載されているように理解すべきものであり、同様の視点が『藤氏家伝』の仏教関係記事の理解についても必要であることを論じた。このことは、従来、渡来僧思託の創作とみなされてきた『延暦僧録』の記事が、一定の信憑性を有することを意味する。

（２）「人的ネットワーク論」として、この出典体系の継承を支えた層を解明するために、①『延暦僧録』に「居士伝」として立伝される在俗仏教徒は、律令官人＝文人＝学者の面を兼ね備えている。

このことから、奈良・平安朝の律令官人の学問に注目した。

②平安時代承平年間に成立した源順撰『和名類聚抄』には、奈良時代の白話体漢和辞書『弁色立成』『漢語抄』『楊氏漢語抄』の口語語彙が引用されている。なぜ、このような唐代口語語彙が古辞書に採録されたのか。

アントニオ・マニエーリは、『和名類聚抄』牛馬部に馬の毛色が詳しく採録されていることに注目し、木簡・正倉院文書から、馬の毛色の名称が牛馬の識別に実際に用いられていることを指摘した（2012 年度大東文化大学大学院外国語学研究科日本言語文化学専攻博士学位論文「『和名類聚抄』「牛馬毛」門の研究―古代日本文化における馬の毛色名―」）。このことは、実務に携わる下級律令官人層が、奈良時代の白話体漢和辞書『弁色立成』『漢語抄』『楊氏漢語抄』の口語語彙を実際に用いたことを意味する。

そこで、『和名類聚抄』にみられる「師説」注記をもつ引用語彙に注目、律令官人が律令学・仏教学・文学などの学問を学んだ場として、「師」の説を聴講する講説の場を想定した。『和名類聚抄』にみえる「師説」注記の分析により、『和名類聚抄』に引く口語語彙「顔面」が、律令学・文学にわたって使用されていることをあきらかにした。

この問題は、奈良朝の歴史書『続日本紀』にも及ぶ。「初唐実録を範とした官曹文案の集積」という基本的な性格を有する『続日本紀』は、実質的に、官曹文案を類聚編纂した律令官人の学問によって支えられていること、また、律令官人の学問は、律令学・仏教学・文学の諸領域にわたり、今日の概念では学問領域を異にすることを論じた。こうした律令官人の学問的な基盤のなかから、律令用語が『続日本紀』官入幕卒伝の表現に摂取されていく様相をあきらかにし、律令官人の学問と文学が『続日本紀』の文学性を支えていることを論じた。

（３）大安寺文化圏の学問と文学には、初唐・太宗、高宗の宮廷文化の総体的・体系的な影響が想定される。

①『翰林学士集』に収載された唐・太宗の宮廷詩廷詩、特に儒教的な儀礼である「釈奠詩」に注目した。初唐の宮廷文化をささえた太宗・高宗とその周辺の「学士」たちが生みだした宮廷詩と、唐代の学制にささえられた構造が、日本の宮廷詩、特に奉和応制詩の規範になっていることを論じた。すなわち、『翰林学士集』の奉和応制詩は、『懐風藻』『万葉集』の宮廷詩の原型ともいえる構造をもっている。これがいわゆる「皇子文化圏」の源流であることを論じた。

②吉備真備『私教類聚』に多大な影響をあたえた『顔氏家訓』に注目し、訓戒書の展開を視野に入れた。儒教的な文献とされる『顔氏家訓』には、『広弘明集』と共通する記事があり、日中を問わず、律令官人層が仏教・儒教などのジャンルをこえた学問的教養を有していたことを論じた。

以上の方法により、律令官人の学問の場が、奈良時代の長安西明寺から大安寺文化圏、さらには平安朝にいたる出典体系の継承に大きな役割を果たしていることを論じた。

「長安西明寺から大安寺文化圏への出典体系の継承」は、ひとつの典型例、モデル構築であり、平城京の文学・学問の源流として、初唐の太宗・高宗の宮廷文化全般を大きくとらえ直す必要性を感じた。

（４）学会活動・現地調査として、具体的には次の成果をあげた。

①2011 年 7 月中国浙江省・浙江工商大学での国際シンポジウムに参加し、スダッタ長者の発表をおこなった。

②2011 年 9 月 1 ～7 日（7 日間）中国・西安・西北大学において「和漢比較文学会西北大学特別例会」に参加、西北大学主催国際シンポジウム「長安と日中文化交流」で講演をおこなった。

唐と日本の文化交流を専門とする西北大学の王国維教授（考古学）、高兵兵准教授（日中比較文学）、李教授（考古学）との研究協議により、《仏教東流》の要となる最新の長安の寺院の発掘調査報告をはじめ多大な教示を得た。

玄奘関連文献、鑑真伝三部作にみえる長安の寺院の実地踏査は有益であり、特に、興教寺の玄奘三蔵の墓塔を確認しえたのは、大きな成果である。「大安寺文化圏」の源流である長安の重要性、《仏教東流》にかかわる唐代の歴史観の解明の必要性を感じ、非常に有益な中国の人脈を形成することができた。

③2012 年 5 月 12 日、中山大学にて基調講演「茶の湯の蓑笠論ーわび・さびの始原を遡る」

④14 日午前、広東外語外貿大学にて教員・大学院生と研究協議。午後、広東工業大学にて講演「仏教東流と大安寺文化圏」を行い、本研究の概要を紹介した。

⑤16 日、魯東大学外国語学院にて講演「仏教東流と鑑真伝ー仏伝から『延暦僧録』へー」鑑真伝『延暦僧録』在俗仏教徒である「天皇菩薩伝」「居士伝」に、スダッタ長者像が投影されていることを指摘した。

⑥18 日、華中師範大学にて講演「仏教東流

と玄奘伝ースダッタ長者の物語　天竺・中国・日本をむすぶものー」を行う。祇園精舎のスダッタ長者の説話の展開をたどり、スダッタ長者の伝記表現は、『延暦僧録』では、特に藤原氏の血を引く人物伝に継承され、藤原氏の伝『藤氏家伝』にも、スダッタ長者伝の論理が継承されていることを指摘、仏伝と玄奘伝の深い関係を読み取った。

⑦6 月 30 日、美夫君志会大会招待研究発表「律令官人の仏教と学問－吉備真備『私教類聚』と『顔氏家訓』『広弘明集』をめぐって－」。吉備真備撰『私教類聚』には、『顔氏家訓』『広弘明集』の直接書承の痕跡が認められること、律令官人の学問の質は、今日、我々が考えているような近代的な学問のジャンルを越えて交流融合していることを論じた。

⑧7 月 2～4 日カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学「Thinking about Cosmopolitan and Vernacular in the Sinographic Cosmopolis：-What Can We Learn from Sheldon Pollok?-（漢字公用圏における公用文と俗文の再検討―シェルドン・ポロック氏から何を学べるのか―」に参加。2 日 Session2 で研究発表「The Function of Nara-period Chinese Vernacular Kango Dictionaries as Seen in the Kangosho,Yoshikangosho,and Benshikirissei（奈良時代の口語体漢和辞書とその機能―『漢語抄』『楊氏漢語抄』『弁色立成』）を行う。『和名類聚抄』所引の奈良時代の白話体漢和辞書『弁色立成』『漢語抄』『楊氏漢語抄』の俗語に注目、唐代俗語が古辞書に採録された理由として、律令学・仏教学・文学の講説の場を想定し、《律令官人の学問の質と場》が、奈良時代の長安西明寺から大安寺文化圏、さらには平安朝にいたる出典体系の継承に大きな役割を果たしていることを論じた。Session1 のジョン・ジョーゲンセン氏 Non-Literary Chinese Language and its Use in Pre-modern Korea と非常にかぶる点がありつつも、見解を異にしたので、議論が白熱、学問的刺激に満ちた議論であった。

（５）2013 年 9 月 26～1 月 31 日の成果は次のとおりである。

9 月 26～10 月 1 日、ノルウェー・オスロ大学でオースタッド安倍玲子教授と研究協議、津島佑子『ナラ・レポート』が阿部泰朗『湯屋の皇后』を典拠として文学的創造を達成していることを論じた。オスロ大学図書館司書矢部直美氏の協力をえてオスロ大学図書館所蔵の和本調査収集。

10 月 2～4 日、スウェーデン・ヨーデボレ大学でトウンマン武井典子教授、トーマス・エックホルム講師と、本研究の前段階として近世の茶の湯で「知的体系の継承関係論」「人的ネットワーク論」の二つの軸を据えて継続している大東文化大学東洋研究所「茶の湯と座の文芸」研究班の研究協議と大学図書館の和本調査。

10 月 12～11 月 30 日、イタリア国立サレント大学マリア・キアラ・ミリオーレ教授と弥勒信仰・聖徳太子伝について講演・研究協議。

11 月 16 日、イタリア国立サレント大学人文学科シンポジウム「中国、西にありー古代・近代日本における中国の受容・翻訳・外観ー」で研究発表「La costruzione della figura di Shotoku Taishi attraverso le fonti in cinese（仏教東流と聖徳太子の造型）」。

11 月 24 日、イタリア・フォレンツォのサンティッシモ＝クロシフィッソ修道院講演会「仏教における「慈悲」ー宗教信仰の世界観ー」で講演「インドから日本までの弥勒菩薩の旅－弥勒菩薩＝慈氏＝仏教のメシアの造型」。

12 月 3 日～1 月 30 日、フランス国立高等研究院シャルロッテ・フォン・ヴェアシュア教授のもとで研究協議。この間、日本学高等研究院所長アニック・ホリウチ教授（日本近世史）、極東学院フレデリック・ジラール教授（仏教学）、同リン・クオ教授（敦煌学）、パリ第七大学教授ミッシェル・ヴィリヤード・バロン教授（日本古典文学・韻文）、パリ第七大学東洋言語学部マティウス・ハイヤック教授のセミナー、歴史民俗博物館岩淵令治准教授の講演に参加。フランスではシャルロッテ・フォン・ヴェアシュア教授、フレデリック・ジラール教授、リン・クオ教授とともに、《仏教東流》にかかわる入唐僧関連文献と敦煌文書の研究を行い、1 月 21 日、フランス国立高等研究院で講演「Les biographies de Ganjin et le pèlerin Xuanzang : un voyage dans la littérature bouddhique du VIIIe siècle（玄奘三蔵と鑑真伝ー八世紀における高僧伝と『延暦僧録』在俗仏教徒の伝の成立過程ー）」を行った。

あわせて、フランス国立ギメ東洋美術館・司書長谷川正子氏、フランス国立図書館写本室日本部門・司書ヴェロニック・ベランシェ氏の協力をえて縮緬本・和本調査。ヨーロッパの各研究機関で縮緬本の書誌調査を行い、縮緬本を通して、西洋に対して日本が、日本文化のみならず、日本仏教を紹介する《日本が発信する仏教西流》の動きを視野に入れる重要性を確認した。

（６）帰国後、3 月 16 日水門の会東京例会で研究発表「玄奘三蔵と敦煌文献ーパリの東洋学に学んだことー」。パリでフレデリック・ジラール氏とともに読んだ敦煌文献『唐三蔵哭西天行記』について、あらためて調査しなおし、その内容を報告した。

3 月 17 日中国・西北大学王維坤教授と、来年度の和漢比較文学会西北大学特別例会で、長安寺院の研究を推進するための研究協議を行った。

（７）帰国後、成果報告の国際シンポジウムを開催した。2013 年 10 月 27 日、大東文化大学創立 90 周年記念第五回「東西文化の融合」国際シンポジウム「仏教東流と東西世界」を大東文化会館で開催した。第Ⅰ部「仏教東流と東西世界」では、「仏教東流とキリスト教

の西流ー東シナ海と地中海の比較ー」シャルロッテ・フォン・ヴェアシュア、「玄奘三蔵と敦煌講史文学」藏中しのぶ、「敦煌文献と中古漢語・口語語彙」寺村政男、第Ⅱ部「仏教東流と日本」では、「舎利と仏教伝来―『日本書紀』仏教伝来記事をめぐって―」鈴鹿千代乃、「『日本霊異記』にみる女性と仏教」マリア・キアラ・ミリオーレ、「旅、自伝、信仰―日本中世の女流日記における参詣の役割―」クリスティーナ・ラフィンが発表し、パネルディスカッションを行った。

（８）帰国後、成果報告の国際シンポジウムを開催した。2014 年 3 月 16 日、水門の会国際シンポジウム「玄奘三蔵とシルクロード・敦煌・日本」を大東文化会館で開催した。第Ⅰ部「玄奘三蔵とシルクロード」では、「玄奘三蔵伝から唐三蔵説話へ」藏中しのぶ、「玄奘三蔵とシルクロード、その現代的意義」白鳥正夫 、第Ⅱ部「玄奘三蔵と敦煌・日本」では「敦煌文献の玄奘三蔵を通して日本仏教を見る」フレデリック・ジラール、「敦煌本『蒙求』攷」相田満、「敦煌文献をよむ」寺村政男の講演をふまえて、第Ⅲ部パネル・ディスカッション「玄奘三蔵とシルクロード・敦煌・日本」を行った。上記講演者に加えて、國學院大學名誉教授鈴木靖民、大正大学元教授米山孝子、群馬県立女子大学教授安保博史がコメンテーターとして加わり、議論を深めた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１６件）

① 藏中 しのぶ編、仏教東流と東西世界、水門―言葉と歴史―、26、水門の会、26、査読有、2014、1-40（刊行予定）
② 藏中 しのぶ、『翰林学士集』の釈奠詩、東アジア比較文化研究、査読有、17、東アジア比較文化国際会議、2014、17-30
③ 藏中 しのぶ、大安寺にみる日本と東ｱｼﾞｱの交流、平成 25 年度「日本と東アジアの未来を考える委員会」古代研究会報告書、査読無、2013、
④ 藏中 しのぶ、玄奘三蔵の慟哭、水門―言葉と歴史―、査読有、25、2013、5-17
⑤ 藏中 しのぶ、『顔氏家訓』と『和名類聚抄』―『遊仙窟』「師説」注記の比較から―、立命館文学、630、立命館大学人文学会、査読無、2013、126-133
⑥ 藏中 しのぶ、『延暦僧録』「近江天皇菩薩伝」と百済弥勒寺―百済・倭のふたつの弥勒信仰―、大東文化大学日本語学科２０周年記念論文集、大東文化大学日本語学科、査読有、2013、1-10
⑦ 藏中 しのぶ、聖徳太子慧思託生説と百済弥勒寺「金製舎利奉安記」、日本文学、査読有、61、日本文学協会、2012、64-67
⑧ 藏中 しのぶ、祇園精舎の投影―東アジアの漢籍におけるスダッタ長者―、東ｱｼﾞｱの漢籍遺産、１，査読無、2012、26-133
⑨ 藏中 しのぶ、Il monastero Daian di Nara e la trasmissione dei testi、La Cultura del Periodo NARA、査読有、291.13、2012、31-42
⑩ 岩田 芳子、藏中 しのぶ、ケビン・ウイルソン、小林 崇仁、佐藤 信一、土佐 朋子、藤本 誠、米山 孝子『沙門勝道歴山水瑩玄珠碑并序』注釈、水門―言葉と歴史―、査読有、23、2011、201-256
⑪ 藏中 しのぶ、大安寺文化圏から文学史の再構築へ、水門―言葉と歴史―、査読有、23、2011、9-21
⑫ 藏中 しのぶ、書評 東京女子大学古代史研究会編『聖武天皇宸翰『雑集』「釈霊実集」研究』、和漢比較文学、査読有、46、2011、102－111
⑬ 藏中 しのぶ、律令・仏教・文学の交錯―唐代口語語彙「顔面」をめぐる講説の場―、日本文学、査読有、5 月号、2011、31-19
⑭ 藏中 しのぶ、スタッダ長者の面影－『藤氏家伝』から『延暦僧録』「居士伝」へ―、藤氏家伝を読む、吉川弘文館、査読無 2011、139-151
⑮ 藏中 しのぶ、聖徳太子慧思託生説と『延暦僧録』「上宮皇太子菩薩伝」、聖徳太子伝の変貌―日本人は聖徳太子をどのように信仰してきたか―、平凡社、査読無 2011、97-128
⑯ 藏中 しのぶ、《小特集》上代における文化圏とは何か―文化圏から文学史の再構築へ―、水門―言葉と歴史―、査読有、23、2011

〔学会発表〕（計１６件）

① 藏中 しのぶ・白鳥 正夫・フレデリック・ジラール・相田 満・寺村 政男・鈴木 靖民・米山 孝子・安保 博史、2014.3.16、水門の会国際シンポジウム「玄奘三蔵とシルクロード・敦煌・日本」第Ⅲ部パネル・ディスカッション「玄奘三蔵とシルクロード・敦煌・日本」、大東文化会館
② 藏中 しのぶ、玄奘三蔵伝から唐三蔵説話へ、2014.3.16、水門の会国際シンポジウム「玄奘三蔵とシルクロード・敦煌・日本」第Ⅰ部「玄奘三蔵とシルクロード」、大東文化会館
③ 藏中 しのぶ、奈良・平安初期の「論語」「文選」の受容―正倉院御物屏風を手がかりとして―、二松学舎大学東アジア学術総合研究所・共同研究シンポジウム「表象される東アジアの学芸文化－１６世紀以前、「論語」「文選」を中心として」（招待講演）、2013.12.1、二松学舎大学
④ 藏中 しのぶ、シャルロッテ・フォン・ヴェアシュア、寺村 政男、クリスティーナ・ラフィン、鈴鹿 千代乃、マリア・キアラ・ミリオーレ、鈴木 靖民、河内 春人、2013.10.27、大東文化大学創立 90 周年記

念第五回「東西文化の融合」国際シンポジウム「仏教東流と東西世界」第Ⅲ部パネルディスカッション「仏教東流と東西世界」、大東文化会館

⑤ 蔵中 しのぶ、玄奘三蔵と敦煌講史文学、2013.10.27、大東文化大学創立 90 周年記念第五回「東西文化の融合」国際シンポジウム「仏教東流と東西世界」第Ⅰ部「仏教東流と東西世界」、大東文化会館

⑥ 蔵中 しのぶ、玄奘三蔵関連の敦煌文献-パリの東洋学から学んだこと-、水門の会東京例会、2013.3.16、首都大学東京

⑦ 蔵中 しのぶ、Les biographies de Ganjin et le pèlerin Xuanzang：un voyage dans la littérature bouddhique du VIIIe siècle（玄奘三蔵と鑑真伝ー八世紀における高僧伝と『延暦僧録』在俗仏教徒の伝の成立過程ー）、フランス国立高等研究院講演会（招待講演）、2013.1.23、フランス国立高等研究院

⑧ 蔵中 しのぶ、供養の東西ー魚籃観音　西域から長安・日本へー、和漢比較文学会、中国・西北大学特別例会、2013.

⑨ 蔵中 しのぶ、大安寺にみる日本と東ｱｼﾞｱの交流、平成 25 年度「日本と東アジアの未来を考える委員会」第 2 回古代研究会、2013.7.26、都道府県会館

⑩ 蔵中 しのぶ、インドから日本までの弥勒菩薩の旅ー弥勒菩薩＝慈氏＝仏教のメシアの造型、仏教における「慈悲」-宗教信仰の世界観-（招待講演）、2012.11.24、イタリア・フォレンツォ・サンティッシモ＝クロシフィッソ修道院

⑪ 蔵中 しのぶ、La costruzione della figura di Shotoku Taishi attraverso le fonti in cinese（仏教東流と聖徳太子の造型）、La Cina a Occidente. Ricezioni, traduzioni e visioni della Cinanel Giappone antico e moderno（中国西にありー古代・近代日本における中国の受容・翻訳・外観ー）（招待講演）、2012.11.16、イタリア・国立サレント大学

⑫ 蔵中 しのぶ、The Function of Nara-period Chinese Vernacular Kango Dictionaries as Seen in the Kangosho,Yoshikangosho,and Benshikirissei(奈良時代の口語体漢和辞書とその機能ー『漢語抄』『楊氏漢語抄』『弁色立成』）、Thinking about Cosmopolitan and Vernacular in the Sinographic Cosmopolis：-What Can We Learn from Sheldon Pollok?-（漢字公用圏における公用文と俗文の再検討ーシェルドン・ポロック氏から何を学べるのかー（招待講演）、2012.7.3、カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学

⑬ 蔵中 しのぶ、律令官人の仏教と学問ー基部の真備『私教類聚』と『顔氏家訓』『広弘明集』をめぐってー、美夫君志会大会（招待講演）、2012.6.30、中京大学

⑭ 蔵中 しのぶ、仏教東流と玄奘伝ースダッタ長者の物語　天竺・中国・日本をむすぶものー、華中師範大学学術講演会（招待講演）、2012.5.18、中国・華中師範大学

⑮ 蔵中 しのぶ、仏教東流と鑑真伝ー仏伝から『延暦僧録』へー、魯東大学学術講演会（招待講演）、2012.5.16、中国・魯東大学

⑯ 蔵中 しのぶ、仏教東流と大安寺文化圏、広東外語外貿大学学術講演会（招待講演）、2012.5.14、中国・広東外語外貿大学

⑰ 蔵中 しのぶ、茶の湯の蓑笠論-わび・さびの始原を遡る、中山大学外国語学院講演会（招待講演）、2012.5.12、中国・中山大学

⑱ 蔵中 しのぶ、仏教東流と大安寺ー弥勒菩薩・スタッダ長者・玄奘三蔵ー、2011.12.23、大安寺講演会（招待講演）、東京・奈良まほろば館

⑲ 蔵中 しのぶ、祇園精舎・長安西明寺・大安寺創建説話の背景、2011.9.11、和漢比較文学会第 4 回西安特別例会　西北大学主催国際シンポジウム「長安と日中文化交流」（招待講演）、中国・西北大学

⑳ 蔵中 しのぶ、律令官人の学問と文学、2011.6.11、東アジア比較文化国際学術会日本支部大会公開講演（招待講演）、大東文化会館

㉑ 蔵中 しのぶ、祇園精舎・スダッタ長者と大乗の菩薩行ー在俗仏教と『顔氏家訓』『私教類聚』『法苑珠林』ー、2012.2.12、説話研究会・筑波大学

㉒ 蔵中 しのぶ、茶の湯と座の文芸ー『茶譜』の人的ネットワーク論と継承関係論ー、俳文学会（招待講演）、2011.12.17、早稲田大学

㉓ 蔵中 しのぶ、祇園精舎の投影ー在家仏教徒の布施行をめぐってー、東アジアの漢籍遺産、2011.7.29、中国・浙江工商大学

㉔ 蔵中 しのぶ、鑑真和上と日中交流ー井上靖『天平の甍』と安藤更正『鑑真大和上伝之研究』の背景ー、中国・華中師範大学　学術講演会（招待講演）、2011.5.11、中国・華中師範大学

㉕ 蔵中しのぶ、日中交流の象徴・鑑真和上の誕生、2011,5,11、中国・浙江工商大学講演会（招待講演）、中国・浙江工商大学

## ６．研究組織

(1)研究代表者

蔵中 しのぶ（KURANAKA　Shinobu）
大東文化大学・外国語学部・教授
研究者番号：40215041